

公益財団法人 JKA 平成27年度 障害者グループホーム建築補助事業  
に関する評価委員会開催 議事録

1. 開催日時 平成28年7月27日(水) 10:00~11:30
2. 開催場所 社会福祉法人育成会本部会議室
3. 参加者

|  |        |
|--|--------|
| 法人理事長                                  | 高村トミ子  |
| グループホームひまわり利用者                         | 木目沢由希子 |
| グループホームひまわり利用者                         | 熊谷 正江  |
| グループホームひまわり利用者                         | 西山恵美子  |
| グループホームひまわり利用者                         | 村上 弘江  |
| グループホームさくら利用者                          | 安島香代子  |
| グループホームさくら利用者                          | 飯塚みよ子  |
| グループホームさくら利用者                          | 島村 芳恵  |
| グループホームさくら利用者                          | 野崎 洋子  |
| グループホームさくら利用者                          | 羽根石亜紀  |
| 法人常務理事・いわき学園管理者                        | 佐藤みさ江  |
| 法人事務局長                                 | 古川 敬   |
| いわき学園事業部長                              | 永山 佳子  |
| いわき育成園管理者                              | 片寄 孝則  |
| いわき育成園事業部長                             | 矢内 美穂  |
| いわき光成園管理者                              | 松崎 亨   |
| いわき光成園事業部長                             | 馬上 早苗  |
| いわき希望の園管理者                             | 櫛田 守幸  |
| いわき希望の園事業部長                            | 馬上 政彦  |
| ライフサポートセンター「ゆう・ゆう」・<br>ヘルパーステーション風雅管理者 | 作田 一浩  |
| ライフサポートセンター「ゆう・ゆう」<br>事業部長             | 小野 るみ  |
| ヘルパーステーション風雅事業部長                       | 三瓶 宏美  |
| 法人本部事務局 総務課長                           | 根本 王大  |

#### 4. 評価内容

##### 1) 本事業の達成度

・国の施策において障がい者の地域移行が積極的にすすめられ、グループホーム利用者及び箇所数は年々増加していると伴に、利用者対象となる方も障がいの比較的軽い方から、重度・高齢の方を中心に据えるなど変化してきている。将来に向けてもこの流れは変わらず、今後はより障害の重い人や高齢者が豊かに地域での暮らしを送るためにどのように支援（サービス）を提供していくかが重要な課題となっている。

課題解決の一つとして、地域での暮らしを支えるために住宅環境が大切なことは述べるまでもないが、全国的には法人が所有するグループホームの物件は3割程度で、多くは賃貸の現状があり、消防法の改正によるスプリンクラーの設置やバリアフリーに基づく暮らしやすい設備への改修は難しくなっている。その結果、障がいの重い方や高齢となった障がい者にとっての暮らしにくさにつながり、地域移行が進まない要因の一つになっている。この課題にどのように対処していくかは、グループホームの将来の姿に影響すると思われる。

社会福祉法人育成会のグループホームは入所施設から地域に出た方が多く、障がいがかつたり、重複していたり、また高齢となっている方の割合が高く、より細やかな支援を必要とする特徴もっている。この特徴は全国的なグループホームの現状や課題の観点からみると、現在及びこれからのグループホームの縮図のような様相を呈している。今回小名浜玉川地区のグループホームを新築・集約し、内一棟については1階と2階のユニット形式をとったこと、重度者高齢者にも暮らし易いバリアフリーの建物に気を配った事、支援員、世話人を常駐する夜間支援体制をとり、休日の日中も配置することで、24時間365日の支援を実現していることは、これからのグループホームのモデルになると考える。この場での生活が、利用する（暮らす）人にとって、どうなのか、また、どのように支援を実践していくかは、法人内にとどまらず、これからのグループホームを考える上で参考になるケースになる。

全体として、今回の整備事業は利用者の暮らし（人生）にとって

充分寄与するとともに、法人理念の実現に向けた大きな歩みになると考える。

## 2) 本事業の波及効果

- ・バリアフリーに基づく暮らしやすいグループホームの整備により、当法人のように入所施設から地域に出た方等、障がいの重い方、高齢化の進んだ方でより細やかな支援を必要する方の支援は全国的なグループホームの現状と課題に対して先駆けとなると考えられる。

## 3) 広報の達成度

- ・JKA補助事業により整備されたグループホームである事の広報については、法人会報誌「ゆう・ゆう」、法人ホームページへの掲載、全国紙「福祉新聞」地方紙3社「いわき民報」「福島民友」「福島民報」への掲載が済んでいるため、目標に達していると考えられる。
- ・外部の利用可能な方の見学受入れを行っている他に、法人理事・評議員、法人利用者の保護者、市内大学の学生にも見学をして頂いている。今後は外部法人の見学の機会があれば、受け入れていきたい。